

ガソリン185円60銭

最高値を更新

全国平均小売り 15週連続値上げ

経済産業省が30日発表した28日時点のレギュラーガソリン1リットル当たりの全国平均小売価格は、前週調査から1円90銭高い185円60銭となり、最高値を更新した。値上がりは15週連続。政府が価格抑制のための補助を段階的に縮小していることが響いた。本県は2円10銭高の183円20銭。岸田文雄首相の指示を受け、政府、与党が家計負担の軽減に向けた価格高騰対策を検討しており、9月から補助を拡充する方針だ。

本県は183円20銭

これまでの補助縮小に加え、アなど主要産油国が追加減産により原油相場の下支え

に動いていることや、円安ドル高が再び進んでいることもガソリン価格を押し上げた。

比較可能な1990年以降でこれまでの最高値は、2008年8月に付けた185円10銭だった。当時は中国での需要増に加え、大量の投機資金が市場に流入

したことで高騰につながった。

ガソリン価格 給油所で販売されるガソリンの小売価格。給油所は石油元売り会社から仕入れる際の卸価格に人件費や利益を上乗せし、独自に価格を決めている。日本は原油のほぼ全量を輸入しているため、ガソリンの店頭価格は国際的な原油価格や為替相場の影響を受けやすい。政府は2022年1月から元売り会社に補助金を支給して卸価格の値上りを抑える方法で、消費者の負担を軽減している。



レギュラーガソリンが1リットル当たり186円の価格を示すガソリンスタンドの表示＝30日午後、東京都内